

圧砕機 SV シリーズ ティース補修要領

はじめに

圧碎機の使用に伴い、アームのティース部分は徐々に摩耗してきます。アームのティース先端部分が摩耗してくると、被破碎物に破碎力が集中せず作業効率が悪くなると共にティース部分の摩耗量もさらに増加します。

初期の作業量を取り戻すためにも、アーム先端部の修理が必要になります。

アームのティース部分を肉盛溶接によって元の形状に整形することは難しく、且つ、時間のかかる作業になっていました。

そこで、NPKでは修理用に補修ティースを用意しました。

この補修ティースは耐摩耗性向上のために特殊な熱処理を施しています。

本マニュアルに従って、摩耗した部分に補修ティースを溶接してご使用ください。

なお、本マニュアルの内容を十分に理解のうえ、溶接作業に取りかかって下さい。これらを守っていただけない場合、アームの折損やティースの早期摩耗につながりますのでご注意ください。

目次

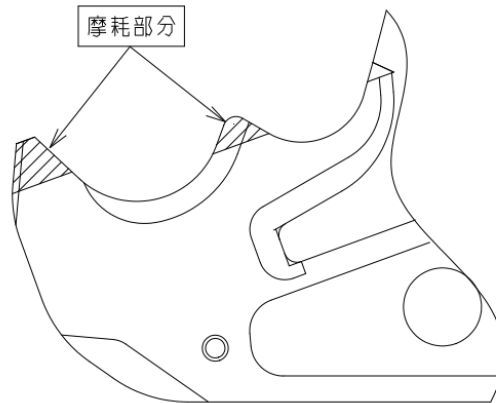
1. 溶接準備	2
• 補修部分の洗浄	
• 摩耗部分の切除方法	
• テンプレート	
2. 補修ティースの溶接	4
• 補修ティースの位置決め要領	
• 補修ティース溶接時の注意	
3. 肉盛溶接による補修方法	6
4. 硬化肉盛の注意事項	7
5. 補修ティースの品番	9
6. テンプレートの品番	10

1. 溶接の準備

・補修部分の洗浄

摩耗したアームのティース部分を広範囲に清掃してください。

アームの摩耗



・摩耗部分の切除方法

補修ティース（品番は部品表参照）を溶接する場所を決めるため、テンプレート（品番は部品表参照）をアームの所定の位置にセットして摩耗した部分を切断位置でガス溶断してください。

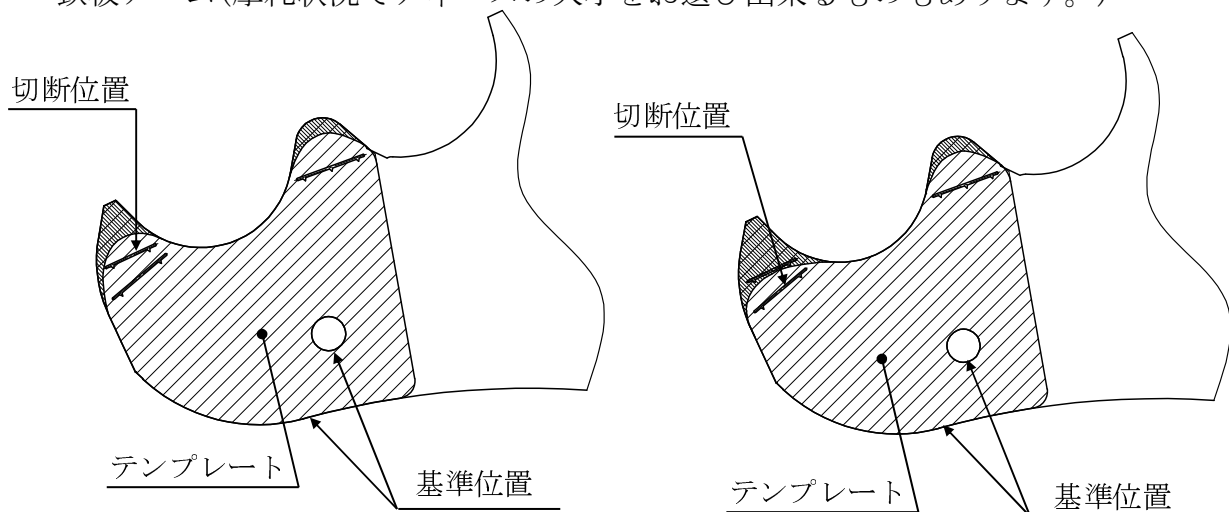
切断後は切断面の酸化皮膜及び、溶接面に残った硬化肉盛溶接をグラインダにて完全に除去してください。

・テンプレート

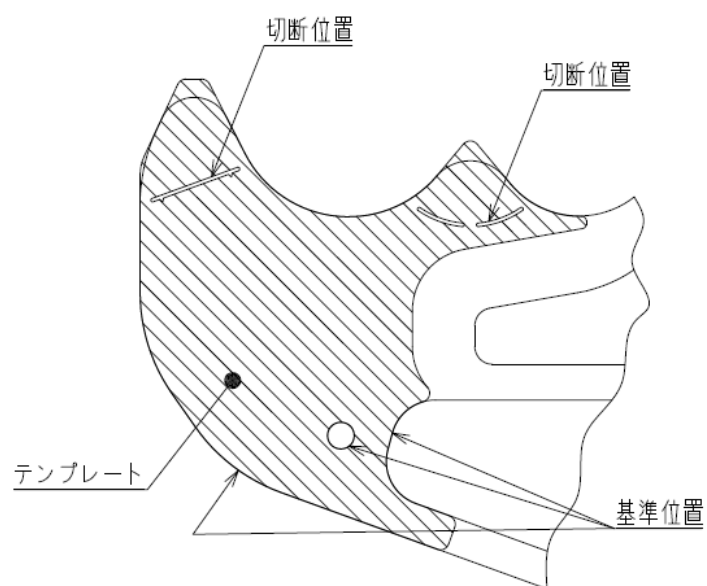
テンプレートのセット方法は下記に示すように各機種に合わせた種類があります。
テンプレートを使用しないタイプもあります。

A:一つ穴とアーム背 基準タイプ

鉄板アーム（摩耗状況でティースの大小をお選び出来るものもあります。）

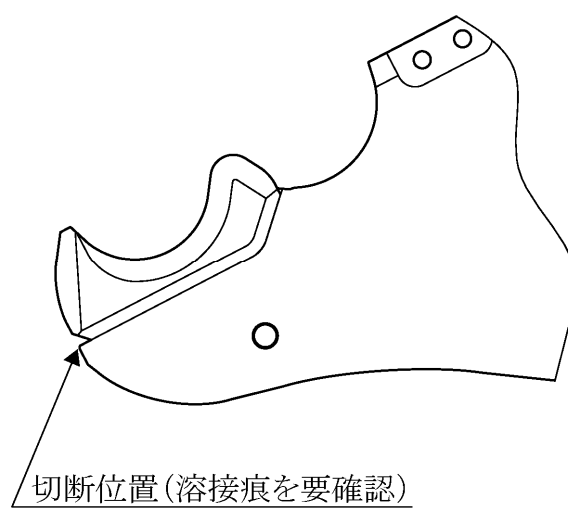


B:一つ穴、アーム背、肉抜 基準タイプ



C:テンプレートなし 溶接基準タイプ

鋳鋼アーム



2. 補修ティースの溶接

※この章では、正しい作業方法および注意事項を記しております。補修時のトラブルを防止するために最後まで、十分にご理解のうえ溶接作業に取りかかってください。

・補修ティースの位置決め要領

補修ティースには、先端用、中央用と一体型があります。機種によっては先端用を大小用意させていただいておりますので摩耗状況にあわせて選んでください。

補修ティースの溶接位置はテンプレートにある位置合わせ用マーク（三角スリット）に補修ティースの中心または面取り部分がくるように合わせ溶接してください。

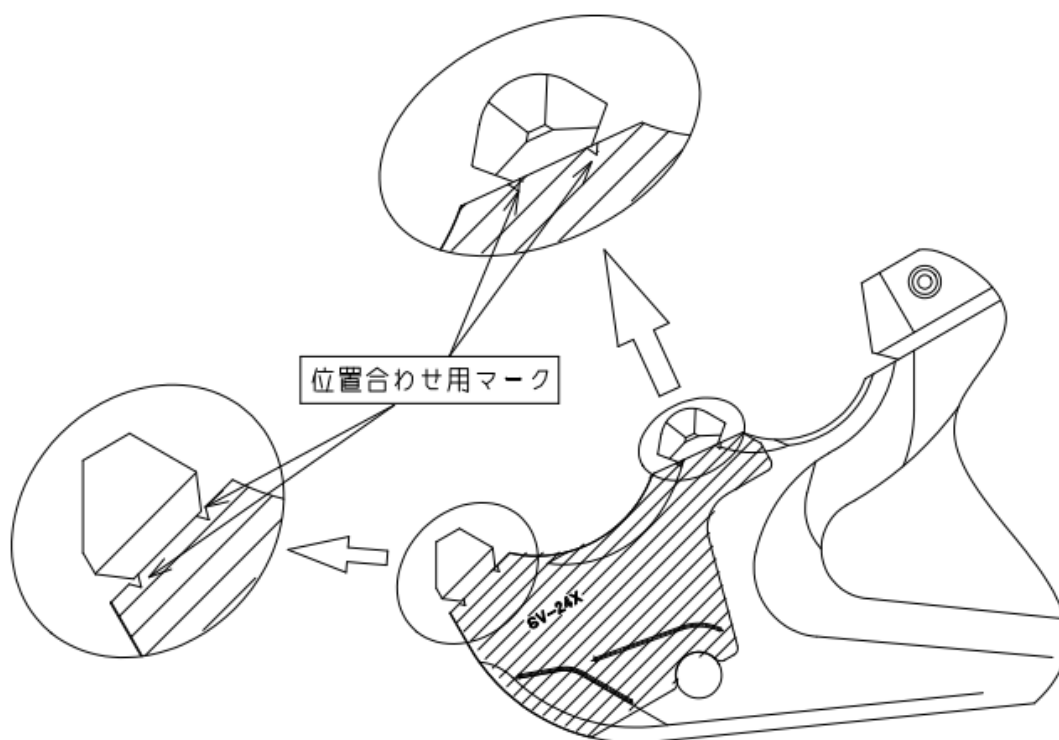
補修ティースには中心を示すマークがありませんのでスケール等でご確認ください。

中央用には位置合わせ用マークの無いものがあります。その場合は、テンプレートに沿って円弧状に切断し、位置合わせを行ってください。

補修ティースを使用せず、肉盛溶接で補修する場合は6ページの“肉盛溶接による補修方法”を参照してください。

テンプレートはアームの先端の外観形状と一致しています。

補修ティース以外の部分で摩耗により大幅に形状が違う場合は肉盛溶接して形状を整える事をお勧めします。



・補修ティース溶接時の注意

焼入された合金鋼（アーム、補修ティース）を不用意に溶接すると、折損や早期摩耗などの原因となる場合があります。

また溶接の際、連続で炭酸ガスアーク溶接、高電流で溶接を行うと、溶接熱により補修ティースが高温になり焼き戻されるため、硬度が低下してティースが早期摩耗する場合があります。

※ティース先端部の温度が300℃以上にならないようご注意ください。

（１）使用溶接棒

肉盛溶接用

◎ JIS Z3212 D5816 （例 神鋼 LB-62）低水素系被覆溶接棒

◎ JIS Z3312 YGW21 （例 神鋼 MG-60）炭酸ガスアーク溶接ソリッドワイヤ

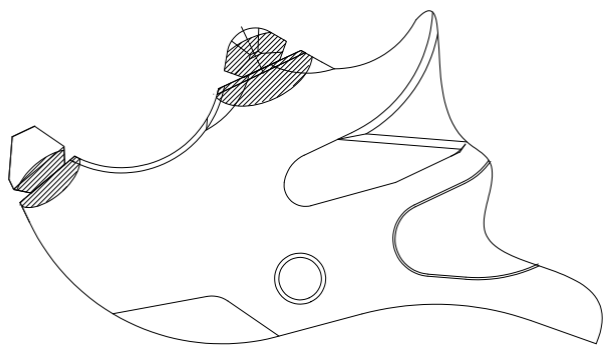
注：低水素系被覆溶接棒は使用前に350～400℃で1時間乾燥を行ってください。

（２）母材の予熱

溶接前に母材（アーム）のティース周辺および補修ティースを100℃程度に予熱してください。

鋳鋼のSVシリーズの場合は、150～200℃に予熱してください。

斜線部予熱範囲



- ★ このとき、局部的に温度を上げすぎないように注意してください。
- ★ 温度は、テンピルスティック（温度指示クレヨン）や表面温度計等で確認してください。
- ★ 内部まで温度があがるように、十分に時間をかけて予熱を行ってください。また冬季は温度が下がりやすいので特に注意してください。

（３）電流

アンダーカットやオーバーラップができないような電流値に調整してください。

（４）補修ティース先端の温度が300℃を超えないように溶接してください。

（５）補修ティースと母材の境界部は、グラインダで滑らかに仕上げて下さい。

(6) 母材側にも開先加工を行うとより溶着しやすくなります。(下図参照)

(7) 溶接後は保温徐冷を行ってください。

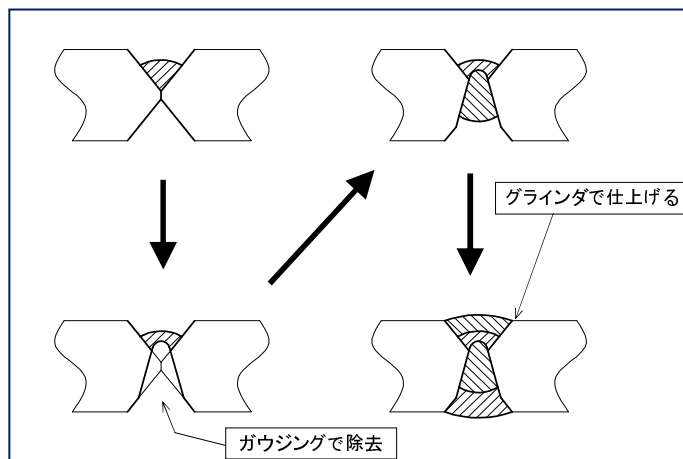
・保温徐冷はセラミックスクロス #9500S [大阪製作所製] 相当に包んで行ってください。

☒ 水をかけるなどの急冷は絶対にしないでください。

(8) 補修後、室温に下がった状態で、クラックがないかを必ずカラーチェックしてください。(クラックがあれば再補修が必要です。)

例: 開先加工を用いた補修図

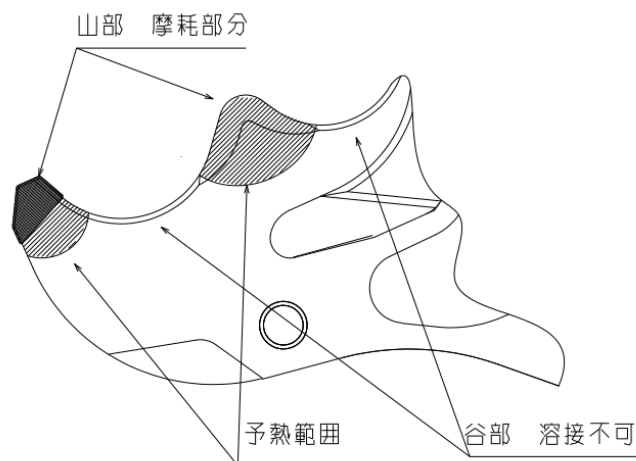
※溶着していない部分を一度削り、
全面溶着させることをお勧めします。



3. 肉盛溶接による補修方法

先に説明した補修ティース交換の必要がないようなアームを肉盛溶接する要領を下記に示します。

溶接補修は鋼板面の山部(右図参照)とは異なり、大きな引張力が加わる谷部(右図参照)は十分な注意が必要です。



(1) 使用溶接棒

肉盛溶接用

◎ JIS Z3212 D5816 (例 神鋼 LB-62) 低水素系被覆溶接棒

◎ JIS Z3312 YGW21 (例 神鋼 MG-60) 炭酸ガスアーク溶接ソリッドワイヤ

注: 低水素系被覆溶接棒は使用前に 350~400℃で 1 時間乾燥を行ってください。

(2) 溶接部分のゴミ、油等をよく取り除いてください。

(3) 母材の予熱

肉盛溶接前に母材（アーム）の溶接部を 100～150℃程度に予熱してください。

- ・このとき、局部的に温度を上げすぎないように注意してください。
- ・温度は、テンピルスティック（温度指示クレヨン）や表面温度計等で確認してください。
- ・内部まで温度が上がるように、十分に時間をかけて予熱を行ってください。
- ・また冬季は温度が下がりやすいので特に注意してください。

(4) 母材の温度が 300℃を超えないように溶接してください。

(5) 谷部の鋭角部分の溶接補修は十分に注意してください。

- ・谷部を溶接補修する場合は、肉盛溶接のみにしてください。
- ・鋭角部は元の製品以上に尖らないようにグラインダで仕上げてください。

(6) 母材と肉盛溶接部の境界はグラインダで仕上げてください。

(7) 溶接後は保温徐冷してください。

- ・保温徐冷はセラミックスクロス #9500S [大阪製作所製] 相当に包んで行ってください。

☒ 水をかけるなどの急冷は絶対にしないでください。

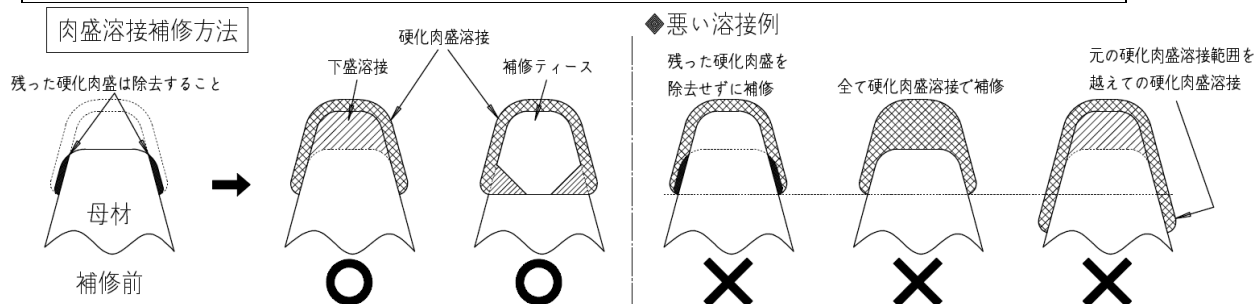
(8) 補修後、室温に下がった状態で、クラックがないかを必ずカラーチェックしてください。（クラックがあれば再補修が必要です。）

4. 硬化肉盛の注意事項

(1) 耐摩耗を特に必要とする場合は硬化肉盛を行ってください。

☒ 以下の溶接は絶対に行わないでください。溶接部より折損するおそれが非常に高まります。

- ・残った硬化肉盛を除去せずにアームを補修すること。
- ・肉盛溶接で下盛溶接をせず、摩耗したアームを硬化肉盛だけで補修すること。
- ・元の硬化肉盛の範囲以上に硬化肉盛を行うこと。



硬化肉盛溶接用

◎ JIS Z3251 DF2B-600-B (例 神鋼 HF-600) 硬化肉盛用被覆アーク溶接棒

◎ JIS Z3326 YF3B-C-600 (例 神鋼 DWH-600) 硬化肉盛用フラックス入りワイヤ

注：これ以上の硬度の硬化肉盛溶接は非常に割れやすくなります。

◎ 当社指定肉盛溶接棒：2 9 9 9 9 8 8 0 (5 kg 入り ϕ 3. 2 mm 棒)

2 9 9 9 9 8 7 0 (3 0 本入り ϕ 3. 2 mm 棒)

(2) 谷部は硬化肉盛の溶接を行わないでください。

・谷部を溶接補修する場合は、肉盛溶接のみにしてください。(硬化肉盛溶接は不可)

(3) 母材と肉盛溶接部の境界はグラインダで仕上げてください。

(4) 溶接後は保温徐冷してください。

・保温徐冷はセラミックスクロス #9500S [大阪製作所製] 相当に包んで行ってください。

☒ 水をかけるなどの急冷は絶対にしないでください。

5. 補修ティースの品番

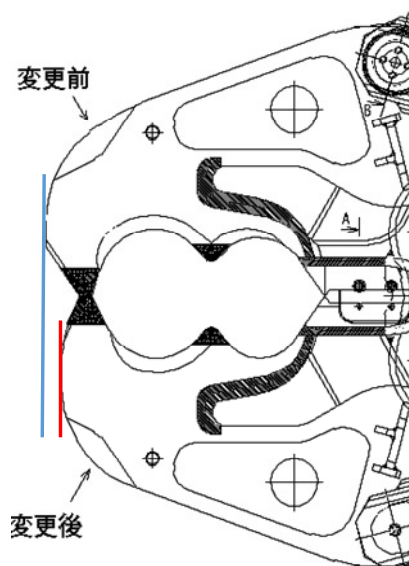
型式		補修ティース品番			対応アーム
		先端	中央	一体	
SV-15X	鋳鋼	19010641	19010640	19010709	—
	鉄板	19010728	19010729	—	—
SV-24X	鋳鋼	19010582 (小)	19010581	19010710	—
		19010583 (大)			
	鉄板	19010725	19010726	—	—
SV-36X	鋳鋼	19010646 (小)	19010645	19010702	—
		19010647 (大)			
	鉄板	19010722	19010723	—	—
SV-47X	鋳鋼	19010652 (小)	19010651	19010703	—
		19010653 (大)			
	鉄板	19010719	19010720	—	—
SV-3X		19011089	19011090	—	16108623
SV-5X		19011092	19011093	—	16108839
SV-7X		19010990	19010991	—	16105314/16105348
SV-65XR		19010576	19010577	—	—
SV-100XR		19010657	19010656	—	16091886
		19010936	19010656	—	16099806
SV-110XR		19010912	19010913	—	16102667
		19011153	19011154	—	16106445
SV30		19011258	—	—	16113227
SV50		19011092	—	—	16116923
SV140		19011067	19011068	—	16107518
					16113730
※SV250		19011016	19010996	—	16105579 つまみやすさ改良
		19010995	19010996	—	16105579
		19011052	19011053	—	16107187
SV380		19011064	19011065	—	16107237
					16125247
SV400		19011023	19011024	—	16107310
		19010998	19010999	—	16105272
SV500		19011001	19011002	—	16105199
		19011019	19011020	—	16107328
SV700		19011223	19011224	—	16114282
SV1000		19011327	19011328	—	
SV1200		19011330	19011331	—	

※SV250アーム変更 16105579⇒16107187

※SV140アーム変更 16107518⇒16113730

注意：SVシリーズはアームの品番により、補修ティースの品番が異なります。
ご購入の際は現状のアーム品番を、ご確認お願い致します。

型式	アーム品番	ティース品番	
		先端	中央
※SV250	16105579	19010995 (元の形)	19010996
		19011016 (つかみやすさ改良)	19010996
	16107187	19011052	19011053



品番:16105579 アーム 変更前

品番:16107187 アーム 変更後

6. テンプレートの品番

型式	テンプレート品番
SV-3X	19011088
SV-5X	19011091
SV-7X	19010992
SV-15X	鋳鋼 19010639
	鉄板 19010727
SV-24X	鋳鋼 19010671
	鉄板① 19010883
	鉄板② 19011021
SV-36X	鋳鋼 19010644
	鉄板 19010721
SV-47X	鋳鋼 19010650
	鉄板 19010718
SV-100XR	19010673 ①
	19010935 ②
	19011150 ③
SV-110XR	

型式	テンプレート品番
SV-65XR	19010672
SV30	19011259
SV50	19011325
SV140	19011069
SV250	19011017 ①
	19011054 ②
	19010997 ③
SV380	19011066①
	19011353②
SV400	19011000
SV500	19011003 ①
	19011018 ②
SV700R	19011222
SV1000	19011326
SV1200	19011329

※**鋳鋼(SV-24X)**:対応アーム品番 16087645, 16091159, 16091431, 16091456, 16091555, 16096141

※**鉄板①**:対応アーム品番 16096109, 16100729, 16098261, 16098712

※**鉄板②**:対応アーム品番 16099464

※**SV250①** : 16105579 つまみやすさ改良

※**SV250②** : 16107187

※**SV250③** : 16105579

※**SV380①** : 16107237

※**SV380②** : 16125247

※**SV500①** : 16105199

※**SV500②** : 16107328

※**SV-100XR①** : 16091886

※**SV-100XR②** : 16099806

※**SV-100XR/SV-110XR③** : 16105629, 16106445

**注意：SVシリーズはアームの品番により、補修テンプレートの品番が異なります。
ご購入の際は現状のアーム品番を、ご確認お願い致します。**

NPK

日本ニューマチック工業株式会社

建機事業部 建機営業部

〒537-0003

大阪府大阪市東成区神路 4-11-5

TEL : 06-6973-9102

FAX : 06-6973-9104

建機事業部 建機 CSS 部

〒578-0984

大阪府東大阪市菱江 2-5-39

TEL : 072-963-1583

FAX : 072-963-1586

<https://www.npk.co.jp/>

